



波紋

発行所 教育活動総合サポートセンター

〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8

E-mail support0731@luck.ocn.ne.jp

URL <http://www.kks-support.sakura.ne.jp/>



「子どもアドボガシー」とは、何か？

「アドボカシー」とは英語で「擁護」や「代弁」を意味する言葉です。第3者が子どもの意見を尊重したり、代弁したりする仕組みの意味で使われます。関係者と調整しながら問題を解決するのが特徴で、国連の「子どもの権利条約」に基づき、欧米での取り組みが広がっています。

日本でも、「こども基本法」が今年の6月に成立し、子どもの意見や希望を尊重したり、その手助けをする「アドボカシー」の仕組みを取り入れたりする動きが広がっています。この子どもの意見を代弁する人を「アドボケイト」と呼んで、現在「アドボケイト」の研修会も開催されています。

この視点でサポートセンターを見つめなおしてみると、宮ノ下、南野川、旭町の各サポートセンターの相談員の皆さんが果たしている役割は、まさに「アドボケイト」そのものです。最後まで子どもの思いや立場に寄り添い、家庭や学校と向き合って話し合い、時には対応策を提言する。サポートセンターはそんな役割をすでに果たしてきていると思っています。ただ、気を付けなければならないことは「大人が考えた、子どものために良いこと」は、子どもにとって息苦しい環境を生み出したり、時には権利侵害を起こしたりする可能性があるということです。今、私たちは「子どもの成長を応援する関わり」をテーマにして研究に取り組み始めましたが、このことをもう一度念頭に置いて、より一層、子どもたちが過ごしやすい施設を作っていくことが大切なのではないかと思えます。

第6回 研究部会

9月7日（水）に第6回研究部会が宮ノ下で行われました。

まず、協議の前に、9月17日（土）に行われる「進路情報説明会・不登校相談会」の情報提供や来年2月11日（土）に行われる予定の「不登校って何？」（仮称）のイベントの進捗状況について報告が行われました。



協議の中では、研究テーマについて今まで議論されてきたテーマについて話し合い、主テーマを「子どもの声から不登校を考える」、サブテーマを「子どもの成長を応援する関わりをするために」にしてはどうかと提案されました。話し合いの中では「子どもの声を聴く」時に、「大人がどのような言葉でどのように説明するか」も大切な要素である。また、子どもによってはスタッフが直接聴く、用紙で記入する、メールで送る（グーグルフォームの活用）など、それぞれの子どもが伝えやすい方法を考慮する必要があるという話も出てきました。齋藤研究部長からは、平成元年度の研究報告冊子が紹介され、このアンケート内容を基にして子どもや保護者、所員に聴きたいことを考えたらどうだろうかという提案がありました。次回10月5日の研究部会では、それぞれの研究員が子どもに聞きたいことなどを考えてくることになりました。

不登校相談会・進路情報説明会

9月17日（土）に総合教育センターで、神奈川県及び川崎市教育センターとフリースクール等による個別相談会が行われました。一般参加者は170名余りでした。当サポートセンターの相談ブースは3か所設けられましたが、3か所併せて19組の子どもや保護者の相談がありました。少しでも、相談者の皆さんの力になればと、所員の皆さんがそれぞれの悩みを傾聴しました。相談に先立って、不登校を経験した親子によるパネルディスカッションが、西野博之氏のコーディネートで行われました。参加した親子の「ことば」（抜粋）を少し紹介します。（裏面へ）

●子どもから当時の状態を振り返る—不登校になったきっかけは？⇒・不登校の理由は、当時は全然わからなかった。自分でもどうしていいかわからなかったので、聞かれると困った。・もやもやした霧がかかったような状態で、当時は「もやもや」の正体がわからず、苦しい感じがした。・ずっと家にいると罪悪感で押しつぶされそうになった。ユーチューブやアニメを見るなど好きなことをしていると苦しさが忘れられた。・外に行くのが嫌だった。「普通」にしていることができない現実苦しんだ。



●親の当時の気持ちを振り返る—不登校の子どもを見てどう思った？⇒・家に居座っているとイライラしていた。・理由が知りたくてしょうがなくて、何がいけないのか理由を探していた。一生懸命、子どもが「行ける道」を探していた。

●親から言われて嫌だったことは？⇒・学校について聞かれるのがつらかった。「『(学校に) 行ってよ』と言われた時が辛かった。・「いつ行くの？これからどうするの？」と聞かれるのが辛かった。そっとしておいてほしかった。

●親にされてうれしかったことは？⇒・寄り添って、いろいろ考えてくれたこと。例えば、毎週誰にも会わない遠いところに連れだしてくれた。自分を気にしてくれているのがうれしかった。・行かせるのをやめようと母が理解してくれた時がうれしかった。・「大丈夫だよ」と言ってくれた時がうれしかった。

●保護者や子どもが悩みと解決の光が見えた時は？⇒(親) ずっと、自分を責め続けてしまい、苦しかったが不登校の親の会で話を共有出来て解決の光が見えた。(子) サポートセンターで、勉強も見てもらえ話も聞いてもらえ、外に出るきっかけができた。自分の居場所ができたように思えた。

事務局会・役員会

9月9日(金)川崎市教育会館で午後1時から事務局会が、午後3時から役員会が行われました。各部会から、丁寧な事業報告が行われました。今回は、2か月分の報告となりましたので、少し時間が長引いてしまいました。役員会では、設立20周年記念事業について様々な意見交換が行われました。報告会と記念祝賀会をどこの会場で行えるかということが、今後の大きな課題として残っています。また、当サポートセンターで事務局長や理事長をされた佐々木武志さんが、川崎市文化賞を受賞されたのでその報告がありました。授賞式は10月27日(木)国際交流センターで行われる予定です。おめでとうございます！！



大山街道～秋のふるさと館まつり

9月23日(金・秋分の日)大山街道ふるさと館で、会館30周年記念式典と30周年の記念イベント「秋のふるさと館まつり」が行われました。この日は、館内外で、様々なイベントが盛大に開催されました。



10月の行事予定

1	土	
2	日	
3	月	事務局打合せ⑦
4	火	学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
5	水	研究部会⑦、日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、寺子屋富士見っ子
6	木	学習支援川崎教室、寺子屋上作延、出前科学教室(梶ヶ谷小) 南野川情報交換会
7	金	研究協議会③(14時教育会館) 学習支援幸・日吉教室、寺子屋
8	土	寺子屋ハッピータウン分教室
9	日	
10	月	(スポーツの日)
11	火	学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
12	水	日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、寺子屋富士見っ子
13	木	臨任研連絡協議会②、学習支援川崎教室、寺子屋上作延、寺子屋富士見っ子
14	金	事務局会13時、学習支援幸・日吉教室
15	土	支援を必要とする子の保護者の会②(13:00市民活動センター) 寺子屋さぎぬま体験活動
16	日	
17	月	学習相談部会⑥、避難訓練・AED研修会(宮ノ下)
18	火	学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
19	水	日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、寺子屋富士見っ子
20	木	学習支援川崎教室、寺子屋上作延
21	金	学習支援幸・日吉教室
22	土	理事会②(10:00川崎市総合自治会館) 寺子屋ハッピータウン分教室
23	日	
24	月	会計担当者会②
25	火	学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま、出前科学教室(西梶ヶ谷小)
26	水	日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、寺子屋富士見っ子
27	木	学習支援川崎教室、寺子屋上作延
28	金	学習支援幸・日吉教室
29	土	寺子屋富士見っ子体験活動
30	日	
31	月	